

事業所名

Second House

支援プログラム（児童発達支援）

作成日

令和6年

4月

1日

| | | | | | | | |
|-----------|-------------|---|-----|-----|---------|---------|--|
| 法人（事業所）理念 | | 「ここから始まる」「ここにいるすべての人（利用児・者、保護者、職員）が新たな事に挑戦し、幸せな未来の実現に向けて手をつなぎ、一歩いっしょ一緒に歩いていく。 | | | | | |
| 支援方針 | | <p>個性、特性、過ごしている環境に応じた支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アセスメント（観察、環境調査、検査等）を行い、必要な課題を適切に設定する。 ・必要に応じた環境（スケジュール提示、場所等の選択など）の設定を行う。 ・セカンドハウスでの活動が、本来の生活の場で活かせるような取り組みをする。 ・保育所等訪問等を活用し、関係機関との連携、情報の共有を十分に図る。 ・児発管、専門職を中心に課題の設定、活動の選定など支援内容の精査を行う。 ・各担当職員は、活動内容の工夫と成果等の振り返りを行い効率の良い支援を目指す。 | | | | | |
| 営業時間 | | 8時 | 30分 | 18時 | 0分 | 送迎実施の有無 | あり |
| 支 援 内 容 | | | | | | | |
| 本人支援 | 健康・生活 | 一人ひとりの利用者の状態に応じて、排泄・衣服の着脱などの日常生活に必要な基本的な動作の支援を行います。 （排泄介助・着脱の介助など） 利用者が安全かつ快適に過ごせるよう、生活空間としての環境を調整します。 | | | | | |
| | 運動・感覚 | 身体を動かすことや、五感（視覚、聴覚、触覚）を刺激する活動を通して、身体機能の向上を図ります。 （バランスボール、トランポリン、感覚統合器を使った運動、近隣の散策、机上活動、感触遊び、読み聞かせなど） | | | | | |
| | 認知・行動 | 認知機能（記憶、判断、思考など）の発達を促し、場面に合った行動を習得できるよう支援します。 | | | | | |
| | 言語コミュニケーション | 言葉や表情、身振り手振りなど、様々な手段を用いて、医師の疎通を図ることを支援します。 また、言葉だけでなく、表情、動作、視線など、様々なコミュニケーション手段を活用します。 支援員が利用者の気持ちを汲み取り、代弁して聞かせながら復唱を促し、場面に合った言葉も習得できるよう支援します。 | | | | | |
| | 人間関係社会性 | 他社との関わりを学び、社会生活に適応できるよう支援します。 | | | | | |
| 家族支援 | | 保護者の方と連携し、家庭での支援へと繋げる。 困りごとや悩みなどの相談と解決 | | | 移行支援 | | 日常的な連携に加え、行事等の際に訪問し、説明の方法や促し方について共有を図る。 年長児は、小学校の見学や体験をしたり、就学に向けて小学校と情報共有を図る。 |
| 地域支援・地域連携 | | 地域の中の公的な場所の利用体験 地域での自立生活を目指し、支援する。 関係機関の切れ目のないサポートを目指す。 | | | 職員の質の向上 | | 研修の場への参加（専門性の向上と最新の知識の習得） OJTsシステムの導入、資格取得支援、労働環境の改善 チームワークの強化、ストレスチェックの実施など |
| 主な行事等 | | 年二回の避難訓練、NEO FIRST祭、親子レクリエーション、親子教室、四季の行事、地域の催しへの参加、保護者も交えた茶話会 | | | | | |